

Trio K/D/M（トリオ・カデム）

K/D/M トリオは、現代音楽の幅広いレパートリーを持つソリストのアンサンブルである。ソロからトリオ演奏までこなすメンバーの柔軟性は、様々なプロジェクトにおいて、20世紀から21世紀初期の歴史的な作品や器楽音楽群と取り組むことを可能にしてきた。トリオはフランス内外で演奏活動を展開し、ソリストとしてカタールフィルハーモニー管弦楽団、ボルドー・アキテーヌ国立管弦楽団、アンサンブル・コントレシャン、Ircam に招聘されている。トリオはこの他にもベルリン・フィルハーモニー、コロン劇場（ブエノスアイレス）、ヴィラ・メディチ、ポンピドゥー・センター（パリ）、アーセナル・オペラ＆コンサートホール（メス）、国立歌劇場のグラン・テアトル（ボルドー）のステージで演奏し、（現代音楽と実験音楽のための）フェスティバル・ムジカ（ストラスブル）、フェスティバル・アルシペル（ジュネーブ）、コントロテンポ（ローマ）、フェスティバル・マニフェスト 2015（パリ）、ブルーデンツ（オーストリア）、フェスティバル・プレザンス（パリ）、そしてレ・ミュジーク 2019（マルセイユ）といった音楽祭にも参加している。

K/D/M トリオは毎年新しい作品を委嘱し、演奏している。最近初演された作品には、マルティン・マタロン、マノン・ルポーヴル、フィリップ・ユーレル、アリレザ・ファーハングの作品が含まれている。

2021年にトリオはチャーリー・チャップリンの映画とマルティン・マタロンの電子音楽に基づくシネマコンサート La Persecuta の初演を行っている。2022年には、K/D/M トリオはマルセイユの劇場、テアトル・ド・ラ・クリエで作家タンギー・ヴィエルと作曲家フィリップ・ユーレルによる《Péripole》を初演した。

2022年にK/D/M トリオは、ティエリー・エスケシュのレコーディング“Cris”に参加し、ヴィクトワール・ド・ラ・ムジークの「アルバム・オブ・ザ・イヤー」を受賞している。